

あべともこニュース

利権まみれの政治はいらない、未来世代を見据えよ

◆政府“GX”政策を問う

2日、超党派「原発ゼロ・再エネ100の会」は、有識者チームと共催で政府のGX推進政策について「国会エネルギー調査会（準備会）」を開催。

金子勝（立教大学大学院特任教授／慶應義塾大学名誉教授）氏から、「GXは、ガラパゴス・原発トランスフォーメーションではないのか？」と指摘。そもそも経産省が2016年から開始した電力自由化の失敗で再エネは苦戦し、大手電力独占市場が継続していることが問題。加えてエネルギーの安定供給が最優先、そのために60年超という“老朽化原発”を稼働させようというが安全性は勿論のこと、コストも多額となると指摘されました。

また、飯田哲也氏（環境エネルギー政策研究所（ISEP）所長）からも、「新しい原発と呼ばれる『次世代革新炉』は、世界では運転にも至っていない」とその場しのぎの“原発回帰”政策へ警鐘が促されました。

政府のGXの問題は何か？ 出典：金子先生資料

- 1. 経産省の産業政策失敗の反省なし→日本の持続可能性を失っている→これ以上の失敗は許されない。
2. エネルギー独占が野放し→電力自由化の失敗と新電力潰しを放置→罰則強化は無意味→所有権分離電気代値上げの妥当性を問う能力が欠如する。
3. 原発60年超運転には根拠はなく、「革新」炉技術なるものも失敗→DX債の仕組み次第で、将来に日本のエネルギー政策は深刻なダメージを受ける。

◆“原子力の憲法”さえも改悪

GX法案の一つ、「GX脱炭素電源法」は、5つの関連法を一括審議する“東ね法”となつています。原子力の憲法”とされ、自主・民主・公開を謳う“原子力基本法”も十分な審議なく推進法へと改正されようとしています。

改正案は、1F事故の教訓を「真摯に反省」としながら、「原子力発電を電源の選択肢の一つとして活用することによる電気の安定供給の確保」と称して、「原子炉等規制法」に定める40年運転制限を廃止し、「電気事業法」で利用者側から決めていくこうとする、まさに「規制の虜」になります。

間もなく震災発生から丸12年、安全神話の復活を許さず、未来に責任を持てるエネルギー政策を遂行すべきです。

◆文化・歴史ある明治神宮を守れ！

3日、阿部とも子も所属する「神宮外苑の自然と歴史・文化を守る国会議員連盟」総会が開催。ラグビー元日本代表の平尾剛さんから、「外苑に刻まれた歴史と秩父宮ラグビー場や球場を残すべき」と。大正15年に日本初の「風致地区」指定された当地、再開発計画に伴い、全国から献木された木々が伐採されようとしています。

私も計画の問題点を先月の予算委員会で指摘しましたが、同17日東京都、28日新宿区が事業者に対し、環境審議会の結論を待たず、伐採・移植を許可。これに対し、周辺住民約60人の方が認可取り消しを求め、東京地裁に提訴しています。

これまでも計画に係る事業者提出の環境影響評価が不十分だと言われていたが、今になり伐採樹木に低木約3000本を含めてなかったことが発覚…。

“市民無視の強行” 事業は即刻中止を！



衆議院議員あべともこプロフィール
神奈川12区（藤沢市・寒川町）
当選8回、東京大学医学部卒業、小児科医、あべともこどもクリニック（湘南台）理事長
現在、厚生労働委員会 原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ公式Twitter @abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ事務所公式Facebookページ

https://www.facebook.com/abetomoko.jp

あべともこ

検索

あべともこ後援会入会及び、ボランティアスタッフ募集中！



写真：総会にて、平尾剛ら